

令和6年度 自閉スペクトラム症にかかわる方のためのオンライン連続セミナー全3回

特定非営利活動法人 滋賀自閉症研究会たんぽぽ

〒525-0031 滋賀県草津市若竹町 2-8

助成事業の概要

令和6年度のセミナーは、その人らしさを活かす支援～「はたらく」ことに向けて～と題し、ASD の人が自己を理解し、自分らしく生き、自ら働くために、それぞれのライフステージでどんな支援が必要なのかを家族、支援者を含む彼らにかかわるすべての人を対象に開催しました。

事業の実施にあたり、会員（正・賛助）及び滋賀県内の療育機関・教育機関・障害福祉事業所・保護者宛にチラシを郵送しました。当法人 HP でも参加募集案内を行っています。オンラインでの開催とし、各回毎に見逃し配信（2週間）やアンケートを実施しています。

第1回 7/13 ASD の人たちの学習スタイル＝諏訪利明氏

第2回 9/29 ASD のご本人たちへの「説明という支援」＝吉田友子氏

第3回 11/10 その人らしい就労を目指して＝高松光照氏

事業の成果

各回89名の受講希望者がありました。（内訳は、正会員40名、賛助会員8名、一般30名、当法人運営障害福祉サービス生活介護型事業所職員11名）県外からの参加者が約20名おられ、オンライン開催ならではの県外への広がりを感じています。また、見逃し配信の視聴回数は各回200回程度あり、参加者の方の学習意欲の高さも感じました。

第1回は、ASD の人と関わる時には、まずは彼らの脳の働きの違いを理解することが重要であること。そのヒントとなる「学習スタイル」について、例題を交えながら実践に結びつきやすい具体的なお話。

第2回は、ASD の人たちは、知的困難の有無に関わらず、自分に関する心理学的医学情報を知る権利があること。説明という支援を安全に行うために私たちが心がけておくべきことについてのお話。

第3回は、ASD の人たちが就労に向けてのトレーニング（就労移行支援）を通して、「社会に適応する力」をどのように身に付けていかれるのかを、地域性を生かした実践例を交えながらのお話。

＊受講者アンケートより感想

（第1回）○ASD の人たちは脳の働きから違う。その観点からの考え方は興味深く、講義を聞かせていただきました。例題もあって少し実践的な学びができ、とても分かりやすく楽しく聞かせていただきました。

（第2回）○当事者の立場にたったのお話、とても勉強になりました。当事者本人の「タイプの気づき」のタイミングは、[ご本人のタイミングである]ということをもっと大切にしないといけないと思いました。○「説明という支援」は、すごく大切な窓口だと思いました。その後の生活や自分の受け入れ方・就労にまで影響することがわかりました。

（第3回）○実践に基づいたお話はとても参考になりました。我が身を振り返り、明日からの支援に役立つヒントが多かったです。

（セミナー全体）○たんぽぽさんの企画は、時系列な講演の内容で毎回ありがたいです。来年度もぜひ参加させていただきたいと存じます。

成果の広報・公表

各セミナー終了後、法人の広報誌（年4回発行）である「たんぽぽ新聞」9月号に第1回セミナーの報告、12月号に第2・3回セミナーの報告をする記事を掲載しました。また、セミナーでご講演くださった講師の方の顔写真を各号、第一面に載せ、第1回で講師の先生が使われた言葉「絵に描ける支援」と大きく見出しがあることで、記事に関心が持てるようにしました。

今後の展開

今回は、正会員の参加者が半数有り、法人内の学習意欲が高まっていることをうれしく思っています。生きづらさを抱える自閉症の人たちが求める支援を当たり前に行うことができる世の中になるよう、保護者他、療育機関、教育機関、障害福祉事業所など自閉症の方にかかわる方すべてに向けて、来年度もセミナーを開催する予定です。

令和7年度セミナー予定

テーマ：いま改めて自閉スペクトラム症の支援を考える～その人らしく地域で暮らすために～

自閉症の人たちの生き方を尊重し、本当に必要なサポートを改めて考えたいと思います。

第1回 障害者観・ASDの基礎理解 諏訪利明氏

第2回 ASDの基礎理解 諏訪利明氏

第3回 事業所での取り組み 檜尾めぐみ氏